

<p>機械式継手 (5,5,3)</p> <p>機械式継手は「鉄筋継手工事標準仕様書・機械式継手工事」(2017年)(公社)日本鉄筋協会による</p> <p>A級及びS A級継手の適用箇所 ※無し (・A級 ・S A級)</p> <p>継手の種類 ※図示</p> <p>継手部のあき ※鉄筋コンクリート造配筋規程図 2-1-4 鉄筋相互のあきによる</p> <p>作業資格者 ※使用する機械式継手メーカーの技術講習を受け、作業資格者 (5,5,2)として認められた者</p> <p>施工前試験 ※実施しない(A級及びS A級機械式継手は施工前試験を実施する。)</p> <p>継手の位置 ※鉄筋コンクリート造配筋規程図 4-2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長、5-1 柱主筋の継手、定着及び余長、6-2 大梁筋の継手、定着及び余長による</p> <p>継手部の試験、検査 (5,5,5)</p> <p>※超音波測定試験</p> <p>(抜取り1試験ロットあたり(※30箇所・%)</p> <p>試験方法はJIS Z 3064による</p> <p>・引張試験(抜取り1試験ロットあたり(・)箇所・%)</p> <p>試験方法はJIS Z 2241:2011による</p> <p>※外觀試験(全数)</p> <p>※不合格になった場合の処置は「鉄筋継手工事標準仕様書 機械式継手工事」(2017年)(公社)日本鉄筋協会による</p> <p>溶接継手 (5,6,3)</p> <p>溶接継手は「鉄筋継手工事標準仕様書・溶接継手工事」(2017年)(公社)日本鉄筋協会による</p> <p>A級継手の適用箇所 ※無し</p> <p>継手の種類 ※図示</p> <p>継手部のあき ※鉄筋コンクリート造配筋規程図 2-1-4 鉄筋相互のあきによる</p> <p>継手施工会社 ※(公社)日本鉄筋協会から認定を受けたA級継手溶接施工会社又は優良鉄筋溶接会社</p> <p>・(公社)日本鉄筋協会から認定又は(財)日本建築センターから評定を受けたA級継手溶接施工会社</p> <p>施工前試験 ※実施しない(A級溶接継手は施工前試験を実施する。)</p> <p>継手の位置 ※鉄筋コンクリート造配筋規程図 4-2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長、5-1 柱主筋の継手、定着及び余長、6-2 大梁筋の継手、定着及び余長による</p> <p>継手部の試験、検査 (5,6,5)</p> <p>※超音波探傷試験</p> <p>(抜取り1試験ロットあたり(※30箇所・%)</p> <p>試験方法はJIS Z 3063による</p> <p>・引張試験(抜取り1試験ロットあたり(・)箇所・%)</p> <p>試験方法はJIS Z 2241:2011による</p> <p>※外觀試験(全数)</p> <p>※不合格になった場合の処置は「鉄筋継手工事標準仕様書 溶接継手工事」(2017年)(公社)日本鉄筋協会による</p> <p>溶接閉鎖型の帯筋及びあばら筋 ※(公社)日本鉄筋協会からの認定を受けた「優良溶接せん断補強筋製造会社」の製品</p> <p>検査機関及び検査技術者</p> <p>検査機関は(公社)日本鉄筋協会認定の優良鉄筋継手検査会社又は(社)CIW認定を受けた第三者機関とし、発注は建築元請業者の直接契約とする。</p> <p>検査技術者は(公社)日本鉄筋協会の鉄筋継手部検査技術者(検査対象継手部の有資格者)で資格種別3種(D3Bを超える場合は4種)の資格者とする。</p> <p>引張試験は原則として公的機関による。</p>	
<p>4. 配筋検査</p> <p>○ 主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。</p>	

<p>6章 コンクリート工事</p> <p>1. コンクリートの種類及び品質 (6,2,1)</p> <p>コンクリートの種類 ※JIS A 5308 レディミクストコンクリート</p> <p>・国土交通大臣の認定を受けたコンクリート(建築基準法第37条第二号)</p> <p>コンクリートの気乾単位容積質量による種類 ※普通コンクリート・軽量コンクリート</p> <p>コンクリート仕様 (6,2,2,3,4)(6,3,1,2)(6,10,1)(6,14,1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用区分</th> <th>設計基準強度 Fc(N/mm²)</th> <th>S (cm)</th> <th>γ (kN/m³)</th> <th>湿和材料</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎・基礎梁・1階床</td> <td>36</td> <td>15</td> <td>23</td> <td>G</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1階立上り以上</td> <td>36</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>G</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所打ちコンクリート杭</th> <th>湿和材料は置延形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外構その他</td> <td>21 15 23 B</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>湿和材料</th> <th>名称</th> <th>符号</th> <th>名称</th> <th>符号</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>AE剤</td> <td>D</td> <td>防錆剤</td> <td>G</td> <td>高性能AE減水剤(1種)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AE減水剤(1種)</td> <td>E</td> <td>防水材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>膨張材</td> <td>F</td> <td>流動化剤</td> <td>I</td> <td>下記による</td> </tr> </tbody> </table> <p>湿和材料I(種類) (6,3,1)</p> <p>(使用方法) (6,3,2)</p> <p>レディミクストコンクリートの類別 (表6,2,1)</p> <p>特殊な要求性能におけるコンクリート</p> <p>・海塩粒子の影響を受けるおそれのある箇所、海水の作用を受ける箇所等におけるコンクリート (適用箇所 措置)</p> <p>・凍結融解作用を受けるおそれのある箇所におけるコンクリート (適用箇所 措置)</p> <p>・酸性土壌、硫酸塩及びその他の侵食性物質又は熱の作用を受ける箇所におけるコンクリート (適用箇所 措置)</p> <p>コンクリートの仕上がり (6,2,5)</p> <p>コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差、測定方法</p> <p>許容差 ※表6,2,3による</p> <p>セメントの種類 (表6,3,1)(6,3,1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格番号</th> <th>規格名称</th> <th>セメントの種類</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※JIS R 5210</td> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>※下記以外</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ポルトランドセメント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・JIS R 5211</td> <td>高炉セメント</td> <td>・A・B・C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・JIS R 5212</td> <td>シリカセメント</td> <td>・A・B・C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・JIS R 5213</td> <td>フライアッシュセメント</td> <td>・A・B・C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・JIS R 5214</td> <td>エコセメント</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注)高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種の品質は次による。</p> <p>・高炉セメントB種の高炉スラグの混合比は40%以上とする。</p> <p>・フライアッシュセメントB種のフライアッシュの混合比は15%以上とする。</p> <p>・上記のベースセメントの混合比は、セメント製造業者のセメント試験成績表の値により確認する。</p> <p>(使用部位)</p> <p>・ポルトランドセメントでの低アルカリ系の使用(・する ※しない)</p> <p>(使用部位)</p> <p>普通エコセメント ・使用する ※使用しない</p> <p>再生骨材Hの使用 ・使用する() ※使用しない</p> <p>骨材の種類</p> <p>フェロニッケルスラグ骨材、鋼スラグ骨材及び電気炉融化石炭骨材</p> <p>・使用する() ※使用しない</p> <p>骨材の品質</p> <p>砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A・B</p> <p>砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A・B</p> <p>練混ぜ水</p> <p>スラッジ水は原則使用しない</p> <p>回収水は計画供用期間の級が長期、超長期の場合及び高強度コンクリートには使用しない</p> <p>3. コンクリートの打継ぎ (6,8,4)</p> <p>打継ぎ面に設ける目地の寸法 (表6,8,4)</p> <p>4. 型枠 (6,8,1)</p> <p>外部に面するコンクリートの打放し仕上げ(仕上げ塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む。)の打増し厚さ ※20mm ・図示</p> <p>床コンクリート直均し仕上げの打増し厚さ ・無し ※10mm</p> <p>(6,8,4)</p> <p>せき板、支柱の最小存置期間</p> <p>基礎、梁側、柱、壁 ※表6,8,2による</p> <p>スラブ下、はり下 ※表6,8,3による</p> <p>・日(※片持梁、片持ちスラブ)</p> <p>・打設時の下階2層分の支柱は残しておく</p>		使用区分	設計基準強度 Fc(N/mm ²)	S (cm)	γ (kN/m ³)	湿和材料	備考	基礎・基礎梁・1階床	36	15	23	G		1階立上り以上	36	18	23	G		場所打ちコンクリート杭	湿和材料は置延形	外構その他	21 15 23 B	湿和材料	名称	符号	名称	符号	名称	A	AE剤	D	防錆剤	G	高性能AE減水剤(1種)	B	AE減水剤(1種)	E	防水材			C	膨張材	F	流動化剤	I	下記による	規格番号	規格名称	セメントの種類	使用部位	※JIS R 5210	※普通ポルトランドセメント	—	※下記以外		・ポルトランドセメント			・JIS R 5211	高炉セメント	・A・B・C		・JIS R 5212	シリカセメント	・A・B・C		・JIS R 5213	フライアッシュセメント	・A・B・C		・JIS R 5214	エコセメント		
使用区分	設計基準強度 Fc(N/mm ²)	S (cm)	γ (kN/m ³)	湿和材料	備考																																																																						
基礎・基礎梁・1階床	36	15	23	G																																																																							
1階立上り以上	36	18	23	G																																																																							
場所打ちコンクリート杭	湿和材料は置延形																																																																										
外構その他	21 15 23 B																																																																										
湿和材料	名称	符号	名称	符号	名称																																																																						
A	AE剤	D	防錆剤	G	高性能AE減水剤(1種)																																																																						
B	AE減水剤(1種)	E	防水材																																																																								
C	膨張材	F	流動化剤	I	下記による																																																																						
規格番号	規格名称	セメントの種類	使用部位																																																																								
※JIS R 5210	※普通ポルトランドセメント	—	※下記以外																																																																								
	・ポルトランドセメント																																																																										
・JIS R 5211	高炉セメント	・A・B・C																																																																									
・JIS R 5212	シリカセメント	・A・B・C																																																																									
・JIS R 5213	フライアッシュセメント	・A・B・C																																																																									
・JIS R 5214	エコセメント																																																																										

<p>5. 試験 (6,9,2)</p> <p>フレッシュコンクリートの試験</p> <p>試料の採取場所 ※荷卸し地点 ・ポンプの筒先</p> <p>試験 ※表6,9,1による</p> <p>コンクリートの強度試験 ※行う ・行わない (6,9,3)</p> <p>※表6,9,2による(※28日は原則として公的機関)</p> <p>6. 軽量コンクリート (6,10,1)</p> <p>適用箇所</p> <p>常時土あるいは水に直接接する部分への使用 ※使用しない ・使用する (6,10,1)</p> <p>軽量コンクリートの種類及び所要気乾単位容積質量 ・1種 ・2種(表6,10,1)(6,10,2)</p> <p>7. 寒中コンクリート (6,11,1)</p> <p>適用期間 ※JASS5による</p> <p>・月 日～ 月 日</p> <p>初期養生を行う期間 ※コンクリートの圧縮強度が5N/mm²以上となるまで (6,11,4)</p> <p>試験 ※表6,11,1による(※28日は原則として公的機関) (6,11,6)</p> <p>8. 暑中コンクリート (6,12,1)</p> <p>適用期間 ※日平均気温の平年値が25℃を超える期間</p> <p>・月 日～ 月 日</p> <p>構造体強度補正值(S) ※6 N/mm² ・ N/mm² (6,12,2)</p> <p>9. マスコングリート (6,13,1)</p> <p>適用箇所</p> <p>セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種(低発熱型) (6,13,2)</p> <p>・中熱ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種</p> <p>・低熱ポルトランドセメント ・シリカセメント</p> <p>湿和剤の種類 ※AE減水剤又は高性能AE減水剤</p> <p>湿和剤の種類 ※6,13,2(2)(イ)</p> <p>スランプ(cm) ※15</p> <p>調査強度を定める材令 ※28日 ・ 日 (6,13,5)</p> <p>温度応力解析 ・打設計画に合わせ施工者が実施する</p> <p>応力強度比の許容値 ※1.3以下 ・0.8以下</p> <p>10. 無筋コンクリート (6,14,1)</p> <p>適用箇所 ※防水層の保護コンクリート</p> <p>・配管埋設用コンクリート</p> <p>設計基準強度(N/mm²) ※18</p> <p>スランプ(cm) ※15 ・18</p> <p>粗骨材の最大寸法(mm) ※25mm以下 (6,14,2)</p> <p>11. 流動化コンクリート (6,15,1)</p> <p>適用箇所</p> <p>スランプ(cm) ※表6,15,1による</p> <p>12. 高強度コンクリート</p> <p>設計基準強度が48N/mm²を超える高強度コンクリートを使用する鉄筋コンクリート工事は高強度コンクリート工事特記仕様書による。</p>
--

<p>7章 鉄骨工事</p> <p>1. 共通事項 (7,1,3)</p> <p>鉄骨製作工場の加工能力等</p> <p>※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に適合する工場として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場</p> <p>性能評価基準 (表6,8,3)(7,1,4)</p> <p>○(H)グレード(適用範囲:屋根鉄骨)</p> <p>○(M)グレード(適用範囲:その他鉄骨)</p> <p>施工管理技術者 (7,1,3)(7,1,4)</p> <p>鉄骨製作管理技術者の配置 ※配置する ・配置しない</p> <p>鋼材の材質 ※JIS規格品(規格証明書付)・規格適合品(寸法、強度保証) (7,2,1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SN400A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SN400B</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SN400C</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SN490B</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SN490C</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SS400</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SM490A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SM490B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SSC400</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○STK400</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○STK490</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・STKN400B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・STKN490B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・STKR400</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・STKR490</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BCP235</td> <td>材質 SN400・B</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・C(内ダイアフラムの取付仕口部)</td> </tr> <tr> <td>・BCP325</td> <td>材質 SN490・B</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・C(内ダイアフラムの取付仕口部)</td> </tr> <tr> <td>・BCR295</td> <td>材質 SN400B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SN490C</td> <td>図示</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注)40mmを超える板厚の場合にTMCP鋼とする鋼種</p> <p>・SN490B</p> <p>○SN490C</p> <p>電炉鋼材の使用条件</p> <p>使用可能部位 ※大梁中央部</p> <p>※小梁、間柱などの二次部材</p> <p>※スプラインプレート、ガセットプレート、リブプレート</p> <p>板厚 ※40mm以下</p> <p>化学成分及び機械的性質 ※JIS規格の化学成分及び機械的性質のほか、以下を満足するものとし、ミルシートで確認する。</p> <p>化学成分 ※S≤0.008%(適用範囲:SN400C及びSN490Cの広幅平鋼と鋼板)</p> <p>※S≤0.008%(適用範囲:SN400B及びSN490Bの広幅平鋼と鋼板)</p> <p>シャルピー吸収エネルギーV₅₀(0℃)</p> <p>※70J以上(適用範囲:SN400B, SN400C)</p> <p>※100J以上(適用範囲:SN490B, SN490C)</p> <p>板厚方向の絞り値RA ※25%以上(適用範囲:SN400C, SN490C)</p> <p>高力ボルト (7,2,2)</p> <p>○トルシア形高力ボルトセットの種類</p> <p>2種(S10T、建築基準法に基づき認定を受けたもの)</p> <p>・JIS形高力ボルト(JIS B 1186)セットの種類</p> <p>2種(F10T)</p> <p>○溶融亜鉛めっき高力ボルトセットの種類</p> <p>1種(F8T相当、建築基準法に基づき認定を受けたもの)</p> <p>普通ボルト ボルト及びナット ※表7,2,3による (7,2,3)</p> <p>座金 ※7,2,3(4)による</p> <p>アンカーボルト (7,2,4)</p> <p>アンカーボルトの材質 構造用 ・SNR400B ・SNR490B ※図示</p> <p>建方用 ※SS400</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度</p> <p>構造用 ※JIS B 1220 構造用転造面ねじアンカーボルト</p> <p>セット(アンカーボルト・ナット・座金のセット)</p> <p>・図示</p> <p>建方用 ※表7,2,3による</p> <p>溶接材料 ※7,2,5(1),(2)による (7,2,5)</p> <p>ターンバックル(JIS A 5540)(JIS A 5541) (7,2,6)</p> <p>ターンバックル鋼 ※割棒式 ・パイプ式</p> <p>ターンバックルボルト ※羽子板ボルト ・アイボルト ・面ねじボルト</p> <p>デッキプレート(JIS G 3352) (6,8,3)(7,2,7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>めっき付着量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・キーストンプレート</td> <td>※SDP1T ・SDP1TG</td> <td>・Z12</td> </tr> <tr> <td>・デッキプレート</td> <td>・SDP1T ※SDP1TG</td> <td>※Z12 ・Z27</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・SDP2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・合成スラブ用デッキプレート(建築基準法に基づき指定又は認定を受けたもの)</td> <td>・SDP1T</td> <td>※Z12 ・Z27</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・SDP2 ※SDP2G</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・床型枠用鋼製デッキプレート</td> <td>※SGCC ・SGHC</td> <td>※Z12 ・Z27</td> </tr> </tbody> </table>		種類の記号	適用箇所	備考	・SN400A			○SN400B	図示		○SN400C	図示		○SN490B	図示		○SN490C	図示		○SS400	図示		・SM490A			・SM490B			○SSC400	図示		○STK400	図示		○STK490	図示		・STKN400B			・STKN490B			・STKR400			・STKR490			・BCP235	材質 SN400・B				・C(内ダイアフラムの取付仕口部)	・BCP325	材質 SN490・B				・C(内ダイアフラムの取付仕口部)	・BCR295	材質 SN400B		○SN490C	図示		種別	材質	めっき付着量	・キーストンプレート	※SDP1T ・SDP1TG	・Z12	・デッキプレート	・SDP1T ※SDP1TG	※Z12 ・Z27		・SDP2		・合成スラブ用デッキプレート(建築基準法に基づき指定又は認定を受けたもの)	・SDP1T	※Z12 ・Z27		・SDP2 ※SDP2G		・床型枠用鋼製デッキプレート	※SGCC ・SGHC	※Z12 ・Z27
種類の記号	適用箇所	備考																																																																																						
・SN400A																																																																																								
○SN400B	図示																																																																																							
○SN400C	図示																																																																																							
○SN490B	図示																																																																																							
○SN490C	図示																																																																																							
○SS400	図示																																																																																							
・SM490A																																																																																								
・SM490B																																																																																								
○SSC400	図示																																																																																							
○STK400	図示																																																																																							
○STK490	図示																																																																																							
・STKN400B																																																																																								
・STKN490B																																																																																								
・STKR400																																																																																								
・STKR490																																																																																								
・BCP235	材質 SN400・B																																																																																							
		・C(内ダイアフラムの取付仕口部)																																																																																						
・BCP325	材質 SN490・B																																																																																							
		・C(内ダイアフラムの取付仕口部)																																																																																						
・BCR295	材質 SN400B																																																																																							
○SN490C	図示																																																																																							
種別	材質	めっき付着量																																																																																						
・キーストンプレート	※SDP1T ・SDP1TG	・Z12																																																																																						
・デッキプレート	・SDP1T ※SDP1TG	※Z12 ・Z27																																																																																						
	・SDP2																																																																																							
・合成スラブ用デッキプレート(建築基準法に基づき指定又は認定を受けたもの)	・SDP1T	※Z12 ・Z27																																																																																						
	・SDP2 ※SDP2G																																																																																							
・床型枠用鋼製デッキプレート	※SGCC ・SGHC	※Z12 ・Z27																																																																																						

<p>設計者</p> <p>一級建築士 第286776号 渡邊 和幸</p> <p>一級建築士 第298249号 土生 達哉</p> <p>一級建築士 第334570号 倉内 信幸</p> <p>構造設計一級建築士 第9202号</p> <p>一級建築士 第382844号 野中 翔太</p> <p>一級建築士 佐藤 亮太</p>				<p>法適合確認欄</p>	<p>検証者</p> <p>倉内 信幸</p>	<p>設計番号</p> <p>17992</p>	<p>特記</p>	<p>徳島県県土整備部営繕課</p>	<p>●工事名</p> <p>徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事(第1工区)</p> <p>●図面名</p> <p>建築工事特記仕様書(11)<構造関係(2)></p>	<p>●図面番号</p> <p>S-002</p> <p>●縮尺</p> <p>1/</p>	<p>第18版B 2023.09.25</p>
---	--	--	--	---------------	-------------------------	--------------------------	-----------	--------------------	--	--	-------------------------

スタッド	※ 頭付スタッド (JIS B 1198)	(7,2,8)
柱底均しモルタル	仕様 (※ 製造所の仕様による)	(7,2,9)
※ 無収縮モルタル	仕様 (※ 製造所の仕様による)	(7,2,9)
	圧縮強度 (※ 表7.2.5 による) ・ 材令28日圧縮強度	N/mm ²
	品質は表7.2.5 を確保する	
	※ 評定及び大臣認定を取得した露出半剛柱脚は取得条件を満足する仕様及び強度とする	
板厚方向引張力を受ける鋼板の試験		(7,2,10)
※ 行わない		
・ 行う (JIS G 0901 による等級 ・ X ・ Y , 適用部材)		
3. 工作一般		
鉄骨の製作精度	※ JASS6 付則6 鉄骨精度検査基準表1~4 による	(7,3,3)
仮組	※ 行わない () 行う (適用箇所 屋根鉄骨 (範囲は図示による))	(7,3,10)
	仮組実施要領は図示による。	
4. 高力ボルト接合		
すべり係数試験	※ 行わない ・ 行う (試験方法等)	(7,4,2)
締付け施工法の確認		(7,4,5)
※ 行う (柱梁接合部、大梁接合部それぞれ3箇所 (フランジ、ウェプトとも))		
ただし原則ナット回転法で締付けを行う溶融亜鉛めっき高力ボルト及びJIS形六角(六角)ボルトは除く。		
※ 行わない		
現場動力導入試験	※ 行う (ボルトメーカー、呼び径、同一製造ロットごとに5セット)	(7,4,7)
※ 行わない		
締付け		(7,4,7)
ナット回転法でボルトの首下長さが呼び径の5倍を超える場合の回転量は、動力導入試験を行い、回転量を決定する。		
5. 普通ボルト接合		
有効な戻り止めの措置	※ ばね座金、二重ナット、ゆるみ防止用特殊ナット、ナットの溶接等	(7,5,2)
	・ 図示	
6. 溶接接合		
施工管理技術者	溶接施工管理技術者の資格 (WES 8103)	(7,6,2)
	○1級 ○2級	
溶接技術者	※ AW 協定協議会の検定試験に合格した資格保有者	(7,6,3)
	○技量付加試験合格による合格者	
(一社)AW 協定協議会保有資格	○工場溶接 (○鋼製エンドタブ ○代替エンドタブ)	
	○現場溶接 (○鋼製エンドタブ ○代替エンドタブ)	
	○溶接ロボットオペレーター (・ RT 種 ・ RC 種 ○ RP 種)	
	○鋼管溶接	
	※ 520N/mm ² 級を超える鋼種及び特殊鋼は原則として技量付加試験を行う。	
技量付加試験方法	※ 試験用鋼材および溶接材料は、実施工で使用する種類とする。試験体の形状、寸法および試験項目、判定基準等は(一社)AW 協定協議会試験基準に基づいて実施する。	
	・ JIS Z 3801, JIS Z 3841 による	
技量付加試験立会い及び判定者	※ AW 協定委員、AW 協定委員経験者又は AW 協定委員が承認した者	
	※ X線透過試験、機械試験は原則として(一社)AW 協定協議会の検定試験実施機関とする。その他の検査機関で試験を行う場合は監理者の承認を得る。	
溶接姿勢	※ 溶接姿勢は保有資格または技量付加試験に適合した姿勢とする。	
	ただし、代替エンドタブを用いた場合の溶接姿勢は下向きとする。	
スカラップの形状	※ ノンスカラップ工法 (適用範囲)	(7,6,7)
	・ 改良型スカラップ工法 (適用範囲)	
エンドタブ	○鋼製エンドタブ	
	○代替エンドタブ (適用範囲)	
	代替エンドタブを使用する場合は AW 協定資格者でかつ監理者の承認を受けること。	
鋼製エンドタブの切断	○行う (適用範囲 柱梁仕口部)	(7,6,7)
	・ 行わない	
切断面の仕上げ	※ 7.6.7(1)(カ)(b)② による	
ワイヤの仕様区分		
溶接条件	適用鋼材の引張強さ	
入熱 (kJ/cm)	バス温度 (℃)	400N/mm ² 級
		490N/mm ² 級
		冷間成形角形鋼管
		400N/mm ² 級
		490N/mm ² 級
15~20	≦150	※ YGW11
		※ YGW18
		※ YGW18
15~30	≦250	※ YGW11
		※ YGW18
		※ YGW18
15~40	≦350	※ YGW18
		※ YGW18
各鋼材のB及びC材の溶接においては、入熱 (溶接電流・電圧、溶接速度)、バス温度の管理値及び検査 (確認) 方法を施工計画書に明記する。		
冷間成形角形鋼管の溶接入熱とバス温度は、日本建築センター「2018 年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」表5.4.2 及び表5.5.2 による。		
被覆アーク溶接棒	※ 溶接接合が被覆アーク溶接による場合は低水素系の溶接棒に統一する	

溶接部の試験		(7,6,12)
工場溶接部の試験		
※ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験及び外観検査		
第三者機関による試験	※ 平均欠陥品質限界 (AOQL) ※ 4.0%	○2.5%
	検査水準	※ 第5水準
鉄骨製作工場の社内試験	※ 100%	
※ 完全溶込み溶接部以外の外観試験		
第三者機関による試験	※ 10%以上	○15%以上
鉄骨製作工場の社内試験	※ 100%	
※ 告示第1464号による柱・梁仕口部のダイヤフラムとフランジのずれ、突合せ継手の食違い、アンダーカットの検査		
第三者機関による検査	※ 10%以上	○15%以上
社内検査	※ 100%	
※ 開先試験		
第三者機関による試験	○行う (15%)以上 ・ 行わない	
社内試験	※ 100%	
第三者機関試験回数 (想定)	○2回 / 1節	回
工事現場溶接部の試験		
※ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験及び外観試験		
第三者機関による試験	※ 100%	○15%以上
※ 完全溶込み溶接部以外の外観試験		
第三者機関による試験	※ 10%以上	%
社内試験	※ 100%	
※ 告示第1464号による柱・梁仕口部のダイヤフラムとフランジのずれ、突合せ継手の食違い、アンダーカットの検査		
第三者機関による検査	※ 100%	
試験機関	※ (一社) 日本溶接協会認定業者のうち、鉄骨製作工場から社内試験を受注していない第三者機関とし、発注は建築元請業者との直接契約とする。	
検査技術者		(7,6,11)
	※ (一社) 日本非破壊検査協会が JIS Z 2305 に基づき認証する超音波探傷試験レベル3 (UT3) の資格者	
溶接施工試験	・ 行う (試験方法)	
	※ 行わない	
溶接接合部の写実の提出	※ 行う ※ 溶接前の開先形状 (スケール添え) ならびに代表的な箇所	
	・ 指定箇所 ()	
	・ 行わない	
放射線透過試験及びエンドタブを用いたマクロ試験	※ 行わない	
	・ 行う (部位)	
7. スタッド溶接及びデッキプレート溶接		
スタッド溶接は母材に直接溶接することを原則とする。デッキプレートにはスタッドの径に 応じたスタッド溶接に支障のない孔をあけ母材に直接溶接する。		
スタッド溶接技術者の技量付加試験	・ 行う ※ 行わない	(7,7,2)
スタッド溶接技術者 (下向き: スタッド径25mm以下、		(7,7,4)
横向き: スタッド径16mm以下)		
スタッド協会「スタッド溶接技術者技術検定試験」の資格者は、		
径22mm以下の下向き場合はAまたはB級、径16mm以下の横向き場合はB級、		
径25mmの下向き場合はF級とする。		
デッキプレートの溶接方法	※ アークスポット溶接 ・ すみ肉溶接	(7,7,8)
	・ プラグ溶接 ・ 焼板粒溶接 ・ 点溶接	
合成スラブ用デッキプレートの溶接方法	※ 焼板粒溶接	
8. 錆止め塗装		
錆止め塗料及び素地ごしらえの種別		(表18.2.2)(表18.3.1)(表18.3.3)(7,8,4)
塗料種別	規格番号	種類
A種	※ JIS K 5674	※ 1種
		※ A種
		※ B種
		※ C種
B種	・ JIS K 5674	・ 2種
		・ B種
		・ C種
		・ D種
		・ E種
		・ F種
塗り回数	※ 工場2回 ・ 現場1回	(18,3,3)
耐火被覆部の錆止め塗装		(7,8,2)(7,8,4)
※ 行う (範囲: 耐火板張り工法, 耐火材巻付け工法, 合成工法の無耐火被覆部)		
(錆止め塗料の種別 ※ A種 ・ B種)		
※ 行わない		
SRC造の鋼製スリーブの内面	※ A種 ・ B種	(7,8,4)
9. 工事現場施工		
施工管理技術者	※ 鉄骨工事管理責任者	(7,10,1)
	※ 建築高力ボルト接合管理技術者	
	※ 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合施工技術者	
建方等の精度	※ JASS6 付則6 鉄骨精度検査基準表5 による	(7,10,2)
アンカーボルト	○構造用 (適用箇所 図示)	(7,10,3)
	・ 建方用	
構造用アンカーボルトの設置は、施工計画書及び施工要領書を作成し監理者の承認を受けること。		
アンカーボルトの保持及び埋込みの工法		(表7.10.1)(7.10.3)
種別	適用箇所	
○A種	主柱	
○B種	二次部材	
柱底均しモルタル工法		(表7.10.2)(7.10.3)
種別	適用箇所	
○A種	主柱	
○B種	二次部材	

10. 溶融亜鉛めっき工法		
亜鉛めっきの種別		(表14.2.2)(7.12.4)(14.2.3)
材料	種別	適用箇所
1. ≥6mm	※ A種	外部露出鉄骨 (屋根鉄骨は除く)
形鋼	3.2 ≤ t < 6mm	※ B種
鋼板類	1.6 ≤ t < 3.2mm	※ C種
		外部露出鉄骨 (屋根鉄骨は除く)
鋼板類	1.6 ≤ t < 3.2mm	※ D種
		外部露出鉄骨 (屋根鉄骨は除く)
鋼板類	1.6 ≤ t < 3.2mm	※ E種
		外部露出鉄骨 (屋根鉄骨は除く)
溶融亜鉛めっき作業は JIS H 8641 (溶融亜鉛めっき) による JIS 表示認定 (7.12.4) 工場で行う。		
めっき作業は JIS H 9124 (溶融亜鉛めっき作業指針) により、めっきの品質等は JIS H 8641 (溶融亜鉛めっき) による。		
酸化物の除去方法	※ 酸洗い ・ プラスト法	
	※ 錆物の場合はプラスト法による	
溶融亜鉛めっき高力ボルト接合部の摩擦面の処理		(7.12.5)
※ プラスト処理 (すべり耐力試験 ・ 行う ※ 行わない)		
※ りん酸処理 (すべり耐力試験 ※ 行う ・ 行わない)		
(すべり耐力試験は、直近2年間における試験実績を提示することにより、省略することができる。ただし、高力ボルト及びりん酸処理製品は同一案件のものとする。)		
JASS6・9.4 めっき部材の矯正、検査および補修による検査		
寸法精度検査、外観検査、付着量検査	※ 行う	・ 行わない
冷間成形角形鋼管に溶融亜鉛めっきを行う場合の鋼材は、高炉材とする。		
11. 食い違い・ずれ及びアンダーカットの検査・補強		
※ 突合せ継手の食い違い、仕口のずれ及びアンダーカットの検査方法 及び補修・補強方法は、独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。		
12. 検査		
検査	検査は JASS6 「10 節検査」による。	
中間検査	※ 行わない	
	○行う	
	検査、確認項目	
	※ 寸法精度検査、取合部検査、外観検査	
	数量	※ 組立溶接した製品1台及び本溶接の完了した製品1台
寸法精度検査	寸法精度検査は JASS6 付則7 「寸法精度受入検査規程」による。	
	・ 書類検査1と対物検査1	
	※ 書類検査1と対物検査2	
13. 550N/mm ² 級の鋼種を扱う製作条件		
※ 鋼材は大臣認定を取得している材料とすること。		
※ 溶接施工は各鋼材大臣認定時の性能評価で審査された、または第三者機関の評定を受けた溶接施工指針の規定に従うこと。		
※ 鉄骨製作工場は下記による。		
・ (株) 日本鉄骨評価センター及び (株) 全国鋼骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定めるSグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場		
・ Hグレード工場 (一社) 全国鋼構工業協会「550N 鋼適用鉄骨の製作能力説明ガイドライン」に基づいて「製作能力説明書」を作成し、「確認書」の交付を受けている工場または (一社) AW 協定協議会の「溶接施工要領評価」による「評価書」の交付を受けている工場		
14. 建方		
施工時応力を入れない部材の建方	※ 行わない	
	○行う (適用範囲 屋根鉄骨)	
	・ 行わない	
建方計画による施工時応力解析	○行う (適用範囲 屋根鉄骨)	

令 第 129 条 の 2 の 3 の 事 項	
1. 建築物に設ける昇降機にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。	
☑ 令第129条の4 (エレベーターの構造上主要な部分)	
☑ 令第129条の5 (エレベーターの荷重)	
☑ 令第129条の6第一号 (かご内の人又は物による衝撃に対する安全)	
☑ 令第129条の8第1項 (駆動装置及び制御器の地震等の転倒、移動防止対策)	
☐ 令第129条の12第1項6号 (エスカレーターの受梁からの脱落防止対策)	
2. 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。	
☑ 建築設備の支持構造及び緊結金物は、腐食又は腐蝕のおそれがないものとする。	
☑ 屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。	
☐ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支脚を設けたものを除き、90cm以下とすること。	
☐ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。	
3. 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備	
☑ 給湯設備の固定方法は平成12建設省告示第1388号第5の規定による構造とする。	
☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。	
☑ 建築物の部分を通ずる場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。	
☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。	
☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防護ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。	
☑ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水櫃、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。	

設計者		法適合確認	検査者	設計番号	特記	徳島県土木整備部営繕課	●工事名	●図面番号	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants 株式会社 梓設計 関西支社 一級建築士事務所 大阪 (C) 第2234号	宮建築設計 MIYA Architect's Office 一級建築士事務所 京都 第1050号
一級建築士 第286776号 渡邊 和幸	一級建築士 第298249号 土生 達哉			17992		徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事 (第1工区)	S-003	●縮尺 1/		
	一級建築士 第334570号 倉内 信幸						建築工事特記仕様書 (12) < 構造関係 (3) >			
	一級建築士 第382844号 野中 翔太									
	一級建築士 佐藤 亮太									